

令和3年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日： 10月29日(金)

会場： 文化センターさくぎ

1.地域の防災

項目	参加者の発言	市の発言
補助避難所の開設について	<ul style="list-style-type: none"> ・作木町自主防災会では、災害時の避難については地域の中で話し合って決めている。 ・避難所へ行くことで危険が伴う場合があるため、まずは地域避難場所等に避難することとしており、補助避難所への避難は最終手段と考えている。 ・補助避難所は、国道375号が通行止めになった時など、災害の規模が大きい状況に自主防災会長が判断して開設することとしており、今年7月の大雨の際は、そうした検討をしている最中に市から補助避難所の開設について一斉放送され混乱した。地域に応じた取組があるので、それを考慮してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作木町は山がちな地形なので、地域において地域避難所に避難したり、垂直避難することで身を守ることは理にかなっている。 ・作木町では各地区の家ごとの避難マップを作成されている。こうした取組がまさに個別避難計画であり、今後の市の取組の参考とさせていただきたい。 ・避難のあり方については、命を守ることが最優先であるので、作木町のように地域に応じた方法を柔軟に構築すべきであり、どの地域でもそうあってほしいと考えている。 ・補助避難所の開設に係る音声告知放送については、調整させていただきたい。
消防団について	<p>消防団が排水ポンプの運用を行っているが、なぜそうなったのか。消防団の担い手が少ない。消防団の負担が増えることにより手がかますすいなくなることが心配。消防団員も仕事をしながらの活動なので、職場に気兼ねもある。市から建設会社などと契約すればよいのではないか。</p>	<p>意見については消防団とも話をさせていただく。</p>
孤立する集落について	<p>先日、空き家バンクで柳原地区の物件を見学された際、土砂災害の恐れがあることから、躊躇された。河川の増水により冠水している時にどこに避難するのか。孤立する集落が数か所ある。</p>	<p>孤立する集落への対応については、道路への流木等の堆積物は撤去して通行に支障をきたさぬよう対応しているが、根本的な改善については、課題と受け止めている。今後、地域事情や特性に基づいて、協議をする中で、地域を守るためにどうするのか考えていきたい。</p>

2. 持続可能なまちづくりについてなど

項目	参加者の発言	市の発言
第3次まちづくりビジョン	<ul style="list-style-type: none"> ・第3次まちづくりビジョンを作成し、作木町の特徴を生かした施策を自治連、元気むらさくぎ、支所と一緒に考えていく。 ・作木町は、人口減少している中で、農地も荒廃している。特色ある地域を次の世代に繋ぐことを事業化していくため、作木町全体として、「作木版アグリパーク構想」を作成して、市に提供していくと思っている。自治連と元気むらさくぎは一体的に動き、将来的には一緒になり、地域を運営していく必要がある。 ・カヌー公園、ふれあい公園、高丸農園、常清滝、女亀山などを一体的に考え、有効的に使い、ICTを生かして、発信していくことが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今ある施設を生かし、活性化していくことは大きなテーマである。三次全体で、三次の資源について考えながら、三次市独自のあり方を、今、模索している。デジタルなどを活用しながら、さらに便利で豊かな生活ができるようになっていきたい。 ・三次市内でも作木町でも生活環境が違っていても、デジタルの恩恵は同じであるということが強みである。その潜在する資源を顕在化させていくことが課題である。 ・作木町の中でアグリパーク構想的なことができれば、他の地域の観光資源などと結びつけ、三次全体の滞在時間を増やし、多くの皆さんに来ていただくなどの効果が期待できる。
生菓の栽培	<p>農地や農業について、管理だけではなく、何を栽培するのが重要だと考えており、将来的に生菓の栽培の取組を検討している。市の取組と連携することはできるのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、6品目の薬用作物の試験栽培を行っている。JAアグリ三次の圃場で生育状況を確認できたことから、現在、JAアグリ三次を含め、市内4か所試験栽培を行っている。 ・北部では布野で試験栽培をしており、生育状況を11月に確認し、北部地域では何が栽培に向いているのかなど情報共有をさせていただきたい。

令和3年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日： 10月29日(金)

会 場： 文化センターさくぎ

項目	参加者の発言	市の発言
人口	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、作木町の人口社会動態・自然動態を考えると、集落維持は難しい状況である。空き家バンクの見学も多いが、作木を選んでもらえない。 ・30代前後の家族を呼びたいが、地域的に難しく、魅力をPRしないといけない。 ・作木町の魅力は自然である。付加価値を地域でどのようにつけていくのか。夫婦がUターンで帰ってくる家族が多く、Iターンは少ないと思う。どのように若い世代を増やしていくのが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定住対策・暮らし支援課では、空き家情報バンク制度により物件を紹介している。何が魅力で何が課題なのか、移住されたい方から聞き取りをして、住民自治組織や集落支援員と情報共有を行いたい。 ・コロナ禍で、価値観が変化しているので、これを好機ととらえ、三次市全般のPRに繋げていく。これまで東京一極集中の状況は変わらなかったが、コロナで、初めて人口減少した。企業も東京から地方に拠点を移してきている。地方の自然豊かな場所で暮らしながら東京で仕事をするなど働き方も変わっている。地域の魅力を発掘して、三次の良さをさらに発信していく。
地域おこし協力隊	<p>作木町は孫ターンが多いことから、住民自治組織と連携して、地域おこし協力隊を、孫や夫婦をターゲットにしたらどうか。Iターンでなく、祖父母のところに帰りたい孫等も対象にするなど人材確保の見直しを含め再検討をお願いしたい。</p>	<p>今後の検討課題とさせていただきます。</p>